

# JICA 中国事務所ニュース 9月号

## 目次

### 【最近のトピックス】

- ◎ 12年の「林木育種」協力が終了へ  
～成果発表会を盛大に開催～ ..... 1
- ◎ 隊員の協力で有機米「喜徳の光」の販売開始 ..... 2
- ◎ 「視覚障がい者のための触って鑑賞する展覧会」に参加しました ..... 3

### 【ニュース】

- 渡辺厚生労働副大臣が中国リハビリテーション研究センターを訪問 ..... 3
- まだ深い四川大地震の傷跡 ～円借款案件の被害状況を視察～ ..... 4
- 「中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭保健サービス  
提供能力強化プロジェクト」第二回モニタリング」実施 ..... 4
- 中央テレビ局(CCTV)取材クルーが藤本次長、林哲浩所員を取材！ ..... 5

【人の動き・主要行事】 ..... 5

【寄稿コーナー】 ..... 6

【帰・赴任者紹介コーナー】 ..... 7

【中国の動き】 ..... 9

## 最近のトピックス

- ◎ 12年の「林木育種」協力が終了へ  
～成果発表会を盛大に開催～



パビジョウの接ぎ木指導をする岡村専門家

中国林業分野への協力は数々あれども、このプロジェクトほど息の長いものはありません！そんな偉大なプロジェクトがついに今

年の10月で終了することとなり、最後の合同調整委員会と湖北省、安徽省それぞれの成果発表会が多数の関係者の出席のもと盛大に開催されました。

本プロジェクトの前身となった「湖北省林木育種計画」プロジェクトが湖北省で始まったのが今から12年前のこと。本プロジェクトは、湖北省に加え、安徽省も対象サイトとして、林木育種に関する技術移転をたゆまぬ努力で進めてきました。

湖北省での12年間、安徽省での7年間の協力により、湖北省では林木育種事業を持続的に推進していくための基本となる「湖北省林木育種事業計画」が策定されるとともに、新品種の開発、優良種苗の生産・普及、遺伝資源の収集・保存等について技術移転が

なされました。こうした技術は、中国南方 17 省の約 700 名技術者に対しても研修を通じて普及が図られています。

また、安徽省では、松の大量枯死の原因となっているマツノザイセンチュウに抵抗性を有するバビショウ(馬尾松)の開発に成功し、接ぎ木によるクローン増殖技術の基礎を確立することができました。

成果発表会で流暢な日本語を駆使して本プロジェクトの成果を発表される皆さんは、当初ほとんど日本語ができない方だったとか…。今回の式典出席のためにわざわざ日本から参加された元専門家の皆さんと笑顔で旧交を温め合う湖北、安徽両省のプロジェクト関係者の姿を見ていると、熱いものが込み上げてきました。

両省と日本の交流は、今後は森林総合研究所林木育種センターとの林木育種事業に関する共同研究という形で、さらに 5 年間継続されます。日中双方の努力で得られたこの強い絆がこれからも末永く続いていくことを心から祈念してやみません。

(業務班 林宏之)

### ◎ 隊員の協力で有機米「喜徳の光」の販売開始



成都伊藤洋華堂の店先でもう並んでいます

「喜徳の光」は、四川省涼山彝族自治州涼山民族中学の学内組織である涼山信賴農園を通じて、涼山州喜徳県連合村で生産されたお米です。涼山信賴農園へは 2007 年 11 月より JICA 青年海外協力隊・村落開発普及

員が派遣されています。今回、この「喜徳の光」が隊員のサポートで販売されることになりました。

涼山州は標高 3,000 メートル級の山々に囲まれ、すばらしい自然環境ですが、それゆえに経済的發展が比較的遅れており、様々な援助を受け入れている地域です。隊員の活動は、その地域が援助を受ける側から自立できるように促すというものです。

隊員が所属している涼山信賴農園の活動目的は、貧困地域の環境を保護しながら、住民自らの経済活動を通して自立すべく所得の向上を行い、その効果である就学率の向上を狙い、人材育成を通じて地域の永続的な發展を目指すものです。

活動内容は、①付加価値の高い農作物を作った農家から、涼山信賴農園が農作物を高く買い上げることによって農家の現金収入を増やすこと②買い上げた農産物を涼山信賴農園が地元の西昌市内や大都市部に出荷し、その販売収益の全てを涼山民族中学の貧困学生への支援や地域の小学校の教育環境改善にあてることです。

具体的には、2000 年より涼山州の山間部にある喜徳県連合村にてこれまで農薬、除草剤、化学肥料を使つたことのない土壌を活かし、米の高付加価値品種であるコシヒカリの有機栽培を行っています。環境保護、食の安全・安心を理念とする日本の農水省の認証である有機 JAS 認証を 6 年連続取得しています。

隊員はその販売網の構築を支援しながら、商品の品質を向上させる仕組みづくりに取り組んでいるところです。

信賴農園は今年 1 月から一般の消費者の方々向けに「喜徳の光」の販売を開始し、現在、成都伊藤洋華堂(イトーヨーカドー)3 店舗、重慶遠東百貨で店頭販売しております。9 月からは、北京華糖洋華堂(イトーヨーカドー)8 店舗でも販売されることになりました。

「喜徳の光」購入を通じて、これらの活動をご支援頂けたら幸甚です。

(四川省涼山彝族自治州涼山民族中学涼山  
信賴農園／青年海外協力隊(村落開発普及  
員)／土屋賢治)

◎ 「視覚障がい者のための触って鑑賞する  
展覧会」に参加しました



笑顔で浴衣を初体験

8月27日から29日北京市広安門の障害者活動センタービルにおいて、「視覚障害者のための触って鑑賞する展覧会」(主催:中国盲人協会、中央テレビ局ニュースチャンネル新聞社、北京紅丹丹教育文化交流中心)が開催されました。会場には宇宙船、車、動物、建物など80個あまりの模型が展示されました。

「視覚障害者のための触って鑑賞する展覧会」とは??? 多くの方がこの展覧会名を読んで疑問に思ったことでしょう。これは「物品を”見る”のではなく、触ったり、聞いたりすることによって、鑑賞しようという展覧会」なのです。

同展覧会のサブテーマは「パラリンピックに参加、世界を触り、調和の取れた社会を共

有する」です。障害者の方々もパラリンピックを控えてわくわくしています。出展品には上述の模型の他に、「鳥の巣」、「水立方」の模型もあり、手で触りながら、自分も会場に身を置く事を想像していると語る方が多くいらっしゃいました。また、なんと、北京五輪聖火リレーで使われた本物のトーチも出展されていました。

JICA中国事務所からは日本文化紹介のために利用している野球のボール、バット、剣玉、浴衣、下駄、鳴子などを出展しました。この中でも一番人気があったのが、浴衣でした。浴衣は触ってみるだけではなく、実際に着てみるができることにしたのです。わたし達は初日に会場に出向いたのですが、会場にいた2時間のほとんどを浴衣の着付けに費やさざるを得ませんでした。それほど、浴衣を着てみたい方がたくさんいらっしゃったのです。浴衣を着てポーズをとる。その時の笑顔、、、浴衣を着てみた方々の心には浴衣を着た自分の姿がどのように写ったのでしょうか?

(ボランティア班 古川寛、相互理解班 周迎)

(編集部注)

今回の行事は北京紅丹丹教育文化交流中心から JICA-NGO デスクを通じて紹介されました。

## ニュース

### ■ 渡辺厚生労働副大臣が中国リハビリテーション研究センターを訪問

9月6日に渡辺孝男厚生労働副大臣が中国リハビリテーション研究センターを訪問され

ました。パラリンピックの開幕式を夜に控え、お忙しい中でのご訪問でしたが、「中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェ



リハビリテーションセンター李主任(左)と  
渡辺副大臣(右)

クト」の藤沢しげ子チーフアドバイザー、新川寿子専門家からもご挨拶を差し上げました。センター側からは日本の援助によるセンターの立上げから現在に至る技術協力の経緯について説明があり、その後の臨床部門の視察においては治療に取り組む患者の皆さんと和やかにご交流されている様子が印象的でした。(長期専門家 多田誠治)

#### ■ まだ深い四川大地震の傷跡 ～円借款案件の被害状況を視察～



土砂崩れで水路の一部がせき止められました

8月19日から22日にかけて、日本国際協力銀行(JBIC)の調査団に参加し、四川省を訪れました。JBICは中国政府に約65億円を貸与し、「四川省長江上流地区生態環境総合整備事業」を2005年以降実施しています。これは、植林やメタンガス施設の建設等を通じ、環境にやさしい生態環境づくりを目的とした案件です。しかし、四川大地震により、水路、植林の現場やメタンガス施設等、多くのプロジェクト施設が被害を受けました。JBICは今

後融資計画の内容を再検討し、被害の回復を計画していますが、その協議と視察のための調査でした。

都江堰では、山中に造った全長8キロの水路の一部が、震災で起きた土砂崩れのために埋まった様子や貯水池を視察しました。また、徳陽では農家に設置されたメタンガス施設を見ることができました。円借款という巨大なインフラ整備がまず思い浮かびますが、この案件は農民の生活に密着したものであることを知り、意外な発見となりました。

しかし、訪問した先々では震災の傷跡の大きさも痛感しました。什邡(じゅうほう)では、倒壊したリン工場に言葉を失いました。またテント生活の方も多く目にしました。

9月下旬にはJICAの調査ミッションが四川に派遣され、技術協力における復興支援の案件が検討されます。四川大地震に対しては、統合後のJICAが一丸となって、長期的な復興に取り組むことが重要だと感じた調査となりました。(業務班 大久保晶光)

#### ■ 「中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭保健サービス提供能力強化プロジェクト 第2回モニタリング」実施

本プロジェクトは2006年の4月から始まり、来年2009年の3月までの協力期間となっています。プロジェクト事務所がある江蘇省太倉市のCTC(中国リプロダクティブヘルス家庭保健研修センター)の研修機能の強化を通じて、中西部地域のリプロダクティブヘルス・家庭保健サービス提供機関の能力を向上させることが、プロジェクトの目標となっています。

プロジェクト2年目の昨年度は母子保健、中高年保健、思春期保健などの技術研修を主に実施しました。技術研修では、技術の知識はもとより、地元に戻ってから研修生自身が講師となり同僚に研修内容を伝える「伝達研修の技法」、そして地元住民に健診や健康教育、そして健康カウンセリングなどのサービスを行うための「模擬サービス」などの授業

も組み入れました。

プロジェクト最終年度となる今年度は昨年の技術研修の成果を把握するためモニタリングを実施しています。5月には第1回モニタリングとして「伝達研修モニタリング」を実施し、8月10日からは第2回モニタリングとして「家庭保健サービスモニタリング」を実施しました。第2回モニタリングは、8サイトの母子保健サービスの実施状況についてインタビューや視察を行い、昨年8月に実施した母子保健研修の成果を把握することを主な目的としました。



重慶では妊婦教室が開かれました

各サイトでは、CTCでの研修に参加したスタッフが講師となり、妊婦教室や新婚教室など現地の状況に合わせたサービスが展開されていました。健康教室では母子保健研修で伝えた教え方のコツなどが垣間見られ、母子保健研修の成果が浸透していることがわかりました。(長期専門家 藤原利恵)  
(編集部注:リプロダクティブヘルス:性別・年齢にかかわらず、性と生殖について身体的・精神的・社会的に良好な状態であることを指すものであり、本プロジェクトでは、中西部地域における母子保健、思春期保健等に関する活動を実施している。

## ■ 中央テレビ局(CCTV)取材クルーが藤本次長、林哲浩所員を取材!

今年5月に日本政府が派遣した緊急援助隊が中国国内で高く評価されたことはすでに皆さんご承知の通りですが、今般、CCTVが、当時派遣された援助隊救助チームの活躍を振り返る番組を作成されるとのことであり、同チームの支援要員として四川省青川県、北川県に同行した藤本次長と林哲浩所員へのインタビュー取材が先日当事務所で行われました。



目に涙を浮かべながら語る場面もありました

取材時間は当初1時間くらいと聞いていましたが、当時の救助チームの活動に同行した際の様子を藤本次長が丁寧に説明していく過程で、インタビュアーであるCCTVディレクター徐氏からの質問も次から次へと深く、細かい内容となっていく、最終的に取材が終了したのは、3時間後でした。今後このインタビュー結果は9月または10月の「銘記」という番組中で放送されるそうですが、放映日、時間等はまだ未定です。どのような内容にまとめられるのか、大変楽しみです。

(総務班 植村吏香)

## 人の動き

## ・ 主要行事

### (1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(9月)

- ・ 林木育種&首都風砂運営指導調査(8/31~9/10)
- ・ 保健医療・感染症対策プロ形調査

(9/15~9/28)

- ・ 科技部CDM技プロ第2次事前調査団(9/18~9/19)

(2) 9月の主要行事

なし

## 寄稿 コーナー

### 広西医療隊員共同活動



DVD 用画像撮影時の様子

私達の任地の広西壮族自治区には青年海外協力隊の医療隊員(看護師・リハビリ隊員)が比較的多く、これを利用して月1回医療隊員で集まり、勉強会や情報の共有、そして実際に病院を回っての見学や活動をしています。私達はこの医療隊員の集まりを「広西医療ベクトル」(以下ベクトル)と呼んでいます。現在ベクトルは6名(内1名任期終了で帰国)で活動しています。

さて、今回ベクトルではリハビリテーションの紹介DVDを作成しました。作成に至った理由として、初めに同自治区内の看護師隊員が、担当患者様へのリハビリ指導の依頼を活動先から受けたことに始まります。その後同自治区内のリハビリ隊員が、機能訓練の行い方を映像にし、看護師隊員に送ったことをきっかけに、せっかく医療隊員が集まっているのだからということで、ベクトルを結成。その時の経験を基にDVD作成の話題が持ち上がりました。さらに以前行った看護師隊員へのアンケートで、リハビリ依頼を受けたこ

とがあるという回答も多く、看護師隊員はもちろん、配属先の看護師や患者様・ご家族など、誰が見ても解るようにリハビリの訓練内容をまとめ、映像化したらよいのではと考え作成に至りました。

作成に至っては、まず各患者様の状態も異なるため、統一された方法がなく、どのように伝えた方がわかりやすいかを話し合いました。そして入院中や退院後でも誰もができる簡単なリハビリとして、関節可動域訓練と起き上がりや歩行といった、基本動作の基礎を取り上げて撮影を行いました。

これは関節の可動域を確保し、日常的に行われる基本動作を通じて、介助量の軽減や寝たきり防止を目的としています。内容は誰でもわかるように映像をメインにし、特に注意が必要な点のみ書面上に残すようにしました。またDVDが再生できない環境も想定し、写真と注意書きをまとめたパンフレットも作成しました。

DVDとパンフレットは内容的にリハビリの基礎的なものですが、病院でのリハビリの紹介や、看護師隊員を通じて配属先の看護師やご家族へのリハビリ紹介により、多くの患者様にリハビリを提供できるのではと考えています。

(柳州市人民病院／青年海外協力隊(理学療法士)／町田将一)

## 帰・赴任者紹介コーナー

### (1) 事務所長 古賀重成

ちょうど2年前の8月20日、在外勤務2度目となる北京空港に降り立った日のどんよ



りした空に少し驚きつつも、協力隊20周年、青年研修事業20周年などの記念式典に追われ、あっという間に1年が過ぎました。今年に入ってから餃子問題、南部地方の大雪、チベット問題、それに5月12日の四川省大地震など、それまで平々凡々に過ごして来た私にとってはあまりにも多くの事に遭遇した、濃密な2年間でした。

前回はパラグアイの農業試験場勤務でしたので、初めての在外事務所勤務では慣れないことも多く、皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。

オリンピックは先進国への仲間入りをする成人式とも言われています。春を終え夏に向かおうとする日中関係の変化とともに、JICAも10月1日に新しく生まれ変わります。事務所では統合の混乱をなくすべく最大限の努力をしておりますところ、皆様にはこれまで以上のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、四川大地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。

(中国事務所長 古賀重成)

### (2) ボランティア調整員 今間智子

2005年8月3日にJICA中国事務所へ赴

任し、3年1ヶ月の任期を終え、9月30日に帰国することとなりました。反日感情が強かった2005年からそれが良好な関係に転じた2008年までの中国で過ごした3年間は、まさに歴史そのものを体験している3年間でもありました。また、3年間で31回の出張を行い、14の省・自治区・58の市や県を訪問し、86箇所の病院や学校の視察及び要請背景調査を行いました。実際にボランティアの方の活躍する現場を見ることで、北京には見えない中国の様々な姿を見ることが出来たことは、私の一生の財産になったと思います。3年間、業務を支えてくださった周囲の皆様にご心より感謝いたします。谢谢!再見!



(ボランティア調整員 今間智子)

### (3) ボランティア調整員 鈴木大介



北京首都空港を降りて空を見上げると、そこには抜けるよう北京の青空が広がっていました。そしてその青空は、この国で2年間の赴任生活を送る私を笑顔で迎えてくれるようで

した。

はじめまして。9月1日に着任したボランティア調整員の鈴木大介です。福島県庁からの出向で、県庁ではテレビ・ラジオ番組の企画・制作の仕事をしていました。中国は大学生の頃、旅行(上海～昆明～大理)で来て以来です。

JICA 業務もボランティア業務もはじめてですが、隊員のみなさんが任地で力を十分に発揮できるよう、全力で取り組んでいきたいと思ひます。

一生懸命がんばります！どうぞよろしくお願ひいたします。

(ボランティア班 鈴木大介)

#### (4) 長期専門家 新川寿子



4月にスタートした「中西部地区リハビリ

テーション人材養成プロジェクト」の長期専門家として9月1日に赴任しました新川寿子(シンカワヒサコ)です。

これまで、中国でリハビリテーション専門職養成プロジェクト(2001-2008)の短期専門家として2回ほど業務を行い、今回3度目の赴任となりますが、北京以外のモデルサイトとも連携を図りながらの業務は初めてですので、藤沢チーフ、多田調整員とともに奮闘中です。

現在、中国においてリハビリテーションを必要としている障がい者の数は3千5百万人超と言われているようですが、リハサービスを提供されている方々は限られており、ニーズに対応できていない状況です。特に今年にはパラリンピックが開催され、障がい者支援に対する関心が深まっています。このことも追い風にして、プロジェクトが円滑に進むよう、努力したいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

(長期専門家 新川 寿子)

=====  
\* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静(shenxiaojing.cn@jica.go.jp)あてにお願ひいたします。  
=====

\* その他お知らせ

JICAのホームページ: チャイナ ライブラリー(和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス(和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>